

## ドクターからの 健康アドバイス



市立角館総合病院  
消化器科 佐々木 健治 医師

### 「大腸癌検診について」

みなさんは今年検診を受診されたでしょうか？今回は、大腸癌検診についてお話ししたいと思います。

みなさんご存知のように大腸癌検診では便を提出します。これは便の中に血液が混じっていないかを調べる潜血反応検査をするためです。潜血反応検査には大きく分けて化学法と免疫法とがあります。

化学法は全消化管の出血を反映していますが、人の血液だけに反応するものではないために、肉類を食べたりすると偽陽性（間違えて陽性にでるもの）となることがあります。

免疫法は人の血液だけに反応するものです。胃などからの出血は胃酸などで血液の性質が変わってしまうために反応しません。そのために大腸からの出血がないかは免疫法で調べています。そのため、大腸癌検診の最初の検査として広くもちいられているのです。検出感度もおよそ40～200  $\mu\text{g/g}$  糞便と鋭敏です。

大腸からの出血の原因となるものとしては痔核、裂肛、ポリープ、癌、憩室症、憩室炎、炎症性腸疾患、その他の腸炎（虚血性、偽膜性、アメーバ性）、動静脈奇形などがあります。痔核は約9%、憩室は約5%、大腸癌は約8%にみられ、その他大腸ポリープなどは約40%にみられると言われています。

大腸癌ではいつも出血しているわけでないため、複

数回検査したほうが良いといわれています。そのため、検診でも2回法で行われています。この方法で大腸癌の約90%は発見できるといわれています。ですから2回のうち1回でも陽性の場合には精密検査を受ける必要があります。精密検査としては、注腸造影検査、大腸内視鏡検査があり、これによって大腸癌かそれ以外の出血の原因となる病変があるかを鑑別することになります。注腸造影検査で異常が認められた場合には大腸内視鏡検査を行うことになるので、最近は大腸内視鏡検査が第一選択になることが多くなりました。

検診の結果が陽性でついている方で精密検査に行くかどうか迷っているかたもおられると思います。以前いた病院でも毎年検診は受けていて、陽性の結果がついていたものの、特に症状も無く、痔の手術もしたことがあり、また痔だろうと思いついて検査に来られなかった方がいらっしゃいました。家族が心配され、強く受診を勧めたことから最初に検診で陽性となってからほぼ2年後に受診されました。検査の結果、進行性の大腸癌が発見され、手術となりました。リンパ節に転移もあり、抗癌剤治療を受けることになりました。

このようなこともありますので、迷われている方は早めの受診をお勧めします。

### 市立角館総合病院からのお知らせ



#### 「診療」及び「薬のみ」予約について

昨年11月15日よりカルテ一元化を始めまして10ヶ月が経過しました。当初、待ち時間等では来院者の方々に大変ご迷惑をおかけいたしましたが当病院といたしましても日々改善を重ねて努力してきたところであります。また、少しでも待ち時間を短縮するために始めました診療予約に関しましても最近ではスムーズに行われてきているようであります。なお、外来によっては「薬のみ」の予約も始めましたので是非ご利用くださるようお勧めいたします。

今後とも、患者様のご期待に応えられるよう努力してまいりますので、何卒、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

■問合せ：市立角館総合病院 TEL (54) 2111